

アマチュア囲碁名人

株式会社クレスコ システムエンジニア

大関 稔さん

囲碁で学んだことが実生活で活きた、
そう自信を持って言えるように。

学生時代から数多の囲碁大会でタイトルを獲得してきた大関稔さん。システムエンジニアとして働く今もその強さは健在で、7月のアマチュア囲碁名人戦では3連覇を達成した。栄光も挫折も味わった囲碁。そこから学んだことは大きく、それが将来への糧となる。

7月に東京・市ヶ谷の日本棋院で行われた第16期朝日アマチュア囲碁名人戦。大関稔さんはこの対局で3連覇を果たし、史上最多タイの通算4期目のアマ名人に就いた。

「大変な戦いになるのはわかっていましたが、自分のやりたい戦い方ができました。こういうパターンに持ち込めば勝負になるというところに、うまく持っていけたと思います」

そう戦いを振り返る。囲碁において大関さんがこだわるのは、勝敗よりもその内容だ。

「囲碁は運に左右されない。そこに魅力を感じてい

ます。麻雀、競馬など他の勝負事もやってみたことはありますが、ハマりませんでした。自分は勝負事として囲碁をやっていない。内容を求めているところがあります」

プロを目指し、夢破れた10代

神奈川県藤沢市で育った。7歳のとき、藤沢市に隣接する平塚市の囲碁教室で初めて囲碁に触れた。平塚市は大正から昭和にかけて活躍した棋士、木谷實が開いた「木谷道場」のあったことから囲碁が盛んな土地だ。各所で囲碁教室が開かれていた。

おおぜき みのる

1994年10月9日生まれ、神奈川県藤沢市出身。2012年神奈川県立深沢高校卒。2014年専修大学2部商学部入学、2年次から1部商学部へ転部。2019年専修大学商学部卒業後、株式会社クレスコ入社。趣味は音楽鑑賞と野球観戦（横浜DeNAベイスターズのファン）。



↑ 2016 年 12 月、大学 2 年次に囲碁での活躍が評価され専修大学学長賞受賞。左は囲碁部長の内野明教授、右は佐々木重人学長



↑ 2017 年 2 月、第 15 回世界学生囲碁王座戦で 2 連覇（前列左から 2 人目）



↑ 2017 年 3 月、北京にて日中友好大学生訪中国（囲碁分団）に出場

「どうしてそう感じたか覚えていませんが、囲碁は面白かった。一つのことに集中する性格が合っていたのだと思います」

小 6 でプロ棋士を目指すことを決意し、小島高穂九段に師事。院生として毎週末、東京の日本棋院に通い腕を磨いた。

同年代の 100 人近い院生の中から、プロになれるのは毎年わずか 2 人。結局、院生でいられる期限の高 2 までに、プロにはなれなかった。だが、諦めきれない。高校卒業時に親に願い出た。

「あと 2 年だけチャンスをください」

19 歳と 20 歳のときにプロ試験を受けた。しかし、あと一歩及ばなかった。

「自分より若い人がどんどん出てきて、勢いがありました。戦っていて、それがよくわかった。もしプロになれていたとしても、自分の伸びしろを考えると限界が見えた。それで諦めがつかしました」

● 重圧から解放され、新たな世界が

囲碁にかけた 10 代だった。回り道したため、2 年遅れての大学進学。専修大学では囲碁部に所属し、様々な大会に出場した。囲碁教室や他大学の囲碁部などで教えたりもしていた。

「プロを目指していたときは、勝たなければいけないという強迫観念の中でやっていて、負けると人格を否定されたように思えました。それがアマチュアの大会では、気持ちが全然違いました」

学生時代には、全日本学生本因坊決定戦、全日本学生王座戦、全日本アマチュア本因坊戦、世界学生囲碁王座戦など、数々のタイトルを手にした。囲碁

に新鮮な気持ちで向き合えた。

「それまで実力主義の世界で過ごしてきたので、大学では強さだけではない楽しみ方を知りました。囲碁においての両面を知れたと思っています」

● 囲碁とシステムエンジニア

「囲碁から得たもので自分にプラスになっていると思うのは、相手を尊重することです。どんな相手であっても、いいところを認めて吸収していこうと思えます。それと、どんな状況でも感情に流されず、冷静でいられるようになりました。それらは囲碁以外でも学べることだとは思いますが、自分はそれを高いレベルで囲碁から学べたのだと思います」

現在、IT 企業の株式会社クレスコでシステムエンジニアとして働く。囲碁とプログラミング、思考の組み立て方に共通点はあるのか——その問いに、しばし考えて、こう答える。

「プログラムを作るときに、最初から一直線に完成を目指すというやり方は基本的にあまりよくない。ときにマイナスということも作業の中にはあって、それは囲碁にも同じような考え方があると思います」

囲碁は、最終的にトータルで陣地が多い方が勝つゲームだ。一見マイナスの手が、後でプラスに転じる布石となることもある。それは時に回り道にも見えた大関さんの歩みにも似ている。今後の目標を聞くと、

「少しずつ自分の中で囲碁の占めるスペースを減らし、仕事にシフトしたいと思っています。そして、これまで囲碁で学んだことが実生活で活かす、そう自信を持って言えるようになりたいです」